

一 失業保險法即時制定要求の件

本節

提案

失業、恐るべき失業

失業、恐るべき失業。一たび失業すれば、一たび悲惨事あること、今更論  
 するに及ばず。失業者の数は第一等と増加し、茲には五十万と云ふ。或は八  
 十万と云ふ。然るに政府が正確なる統計をなし得ないといふ事は、  
 此の人道上の大問題を等閑にせず、資本家階級の利益の擁護にのみ  
 ありては立證するもりである。  
 資本家階級は、その産業の合理化を以て、労働階級の欺瞞し  
 失業の甚しむるに及ばず、又金儲けにのみ心を注ぎ、口実をもち、我々が資  
 本主義の毒牙にかりんとしつゝ、あるでは有りか。  
 失業問題を解決せしむるに、何處に産業の合理化ありや、時又失業の徹底的  
 防止を怠らずして、金儲けの眞精神ありや。  
 労働階級こそ、獨り創造者にあらずや、資本階級は此の富を壟断し、其  
 の結果より出づる一切の社会不幸に對し何等の責任を負んとせざるや、か  
 らん増大せしむるに何等の責任を負らざるや。  
 我等は失業に總對し責任を負はしむるに、社会の富を自己の手中に壟断  
 せし資本家階級に其の責任を負はしむるに、政府が失業保險法を即時制定せん  
 とを要求するものである。

具体的方法

(1)